

ガボンお国事情

室 伏 礼 子

1987年3月29日の金環皆既日食の際にはガボンで観測をしよう、と計画されている方も多いかと思えます。日食に関する詳しいデータ等は他の方々に任せるとして、ここではガボンという国について説明したいと思えます。なお調査不足のためあまり詳しい情報をお届け出来ないこと、まずお詫び致します。

1. ガボンという国

中部アフリカ、大西洋に面しており、赤道をはさんで北緯2度30分～南緯4度の間に位置しています。広さは27万平方キロ。日本より10万平方キロ小さく、国土の85%が赤道雨林、残りの15%がサバンナ地帯となっています。地形は低台地、一番高い山が1,575メートルのルボンジ山です。首都はリーブルビル。公用語はフランス語。ガボン人はバンツ一族に属し、主に7部族に分かれそれぞれの言語を持っていますが、教育がフランス語でなされているためフランス語は子供から老人にまで通じます。注意すべきは物価高。生活必需品を輸入に頼っているため、物価はパリの3倍とか、物価高は世界一とか言われています。

2 入国に際して

旅券と共にビザが必要。ビザは在日ガボン大使館で取得出来ます。ガボンからの Invitation Letterがあるか、ガボン国内に知人がいるならビザ取得は比較的容易そう。大使館に問い合わせましたら、観光目的で入国するなら、ガボン航空を使わないとビザがおりないと言われました。ガボン航空の利用がビザ取得の必要条件なのか。大使館の話では、ビザ申請に必要な書類（旅行予定表と写真は必ず必要とのこと）や、ビザ取得に要する日数、ビザの有効日数なども入国目的等により case by case で異なるということです。ビザがおりるに必要な条件も場合、場合で異なるようですから、大まかな計画が出来たら大使館に行って相談してみるのが一番。大使館の方も（受付の方は日本語が話せます。）、「とにかく来て、どんな旅行内容なのか説明して下さい。」とのことでした。

予防注射についても、大使館では汚染国を通して来ないかぎり必要なし、と言っていました。過去にはビザ申請の際にイエローカードの提示を求められた例もあるようですし、医療機関によっては黄熱病の予防注射（場所によってはコレラも）を受けることを勧めていますから、ある程度の計画が決まったら、大使館及び医療機関に確認するとよいでしょう。

通関については、日本人の場合あまり問題はないようですが、多量の電気製品、工具部品等を持ち込む際には注意を要するとのこと。ダンボール箱に物を入れて持ち込む際には、フランス語の内容明細書を持参するとよいそうです。

通貨はCFAフラン（セーファー・フラン）。1フランス・フランにつき50セーファー・フランの固定相場があります。ドル等の外国通貨とCFAフランとはガボン国内の市中銀行で比較的容易に交換出来るとのこと。

3. 交通

a) ガボンへの足

空の出入口は首都リーブルビル。こことヨーロッパの都市との間を飛行機が往復しています。現在では、例えばガボン航空、UTAフランス航空がパリから週3便ずつ計6便、サベナ・ベルギー航空が、ブリュッセルから週1便、スイス航空がチューリッヒから週1便。所要時間は直行便で7～10時間。（尤も、ガボン航空を使わないとビザが取れないということになると、ヨーロッパからはいるとするとパリ経由に決まってしまうますが。）その他、西アフリカ諸国からも週数便、ガボン航空、エアアフリカなどが就航していますが、東アフリカからは航空路は不便なようです。

b) ガボン国内

首都リーブルビル市内では30分に一本の割合で運行されるバス（時間はあまりあてにならない）と乗合のタクシーがあるそうです。リーブルビルから他の地方都市に行くには、ガボンがアフリカの中でも航空網が発達しており、便数も多く、運航状態もよく、比較的自由に安心して利用出来ることから、飛行機を使うことが勧められています。他にも長距離バスが走っているようですが、時間が不定期で事故も多く利用しない方がよさそう。道路状態が悪い（自動車が走れるのは幹線の国道だけ）ためか、飛行機が飛んでいない場所では交通の便が悪く、少人数で訪問する場合、計画には十分な余裕が必要のようです。鉄道も走っているとのことですが、木材などの積出しが主な目的のようです。リーブルビルにはレンタカー会社があるものの、常に混んでいるので早目の予約が必要だそうです。（主なホテルに予約事務所あり。）

4. ホテルと食事

主要なホテル及び1981年10月（資料が古くて申し訳ありません。）現在の宿泊料は次の通り。

（単位：CFAフラン）

ホテル	シングル	ツイン
Inter-Continental (リーブルビル)	17,600	22,100
Hotel Dialogue (リーブルビル)	18,600	21,900
Novotel-Dowe-Hotel (リーブルビル)	17,300	20,600
Novotel-Rapotchombo-Hotel (リーブルビル)	17,600	20,100
Meridien-Mandi (ポールジャンティ)	17,100	21,300

（宿泊税共。カッコ内は所在都市名）

どのホテルも全室冷房付、レストラン等の施設が整っています。米国系の Inter-Continental は全室500室、英語も通じやすく、部屋も清潔で安心。他のホテルもマネージメントはヨーロッパ系で、フロントには多少英語を話すスタッフがいます。なお1982年の資料によると、Sheraton が建設中とのこと。すでに出来上がっていると思われますが、ホテルの絶対数が少ないことから、早めに確実に予約することが必要。

食事は、ホテルでとれば朝食が1,500~2,000 CFAフラン、昼食が4,000~7,000 CFAフラン、夕食は7,000~8,000 CFAフラン程度。ホテル以外で食べると、ベトナム料理や中華料理でホテルの昼、夕食のみ、フランス料理だとその2倍~3倍かかります。

5. 気 候

さて気になる気候ですが、高温多湿の熱帯雨林気候で、年平均気温27℃、年平均雨量は3,000mm以上。参考までに、リーブルビル地方の年間気温表を載せておきます。なおリーブルビルは海に面しているためガボン国内では比較的日照時間は長い方、内陸にはいるほど短くなるそうです。6~8月が乾季、9月から9カ月が湿潤な猛暑が続くと言われる雨季。(雨季、乾季の分け方は本によって多少異なりますが、3月下旬はどの本を見ても雨季になっています。)ガボンの暑熱は想像以上で、かのシュワイツァーをして、「太陽を敵と思え」と言わせたとか。高湿度のためカビも発生しやすいそうです。

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平均気温(℃)		29.3	29.9	30.1	30.2	29.5	27.5	26.4	26.7	27.8	28.2	28.4	28.9
平均湿度(%)	6時	94	95	95	96	93	86	85	87	89	93	95	94
	12時	79	77	77	77	77	74	73	73	77	81	81	79
平均雨量(mm)		523	411	670	545	510	106	7	29	244	649	799	771
日照時間(時)		175	177	170	168	156	125	123	108	91	109	129	167

(財)世界の動き発行「海外生活の手引・アフリカ篇Ⅲ」より

6. その他

ガボンという国についてあまりよく知らない方でも、シュワイツァーが病院を開いた場所と聞けば、思い当たる方も多いでしょう。1960年にフランスから独立。木材、石油等の天然資源に恵まれ、GNPも高く、温和な性格を持つと言われるガボン人は、平和で安定した生活を送っています。ただ、アフリカの中で最後まで奴隷の輸出が続いたせいもあり、人口密度が非常に小さいのが特徴です。

観光地としてはまだ未発達で、これといった観光地もなく、土産物といっても、アフリカの民芸品程度です。ですが、その分観光ずれしていず、不愉快な思いをせずにすむでしょう。

新聞は日刊紙、L'Union が発行され、テレビ、ラジオの放送もあります。(フランス語) 日本との通信手段は手紙が航空便で7~10日、船便で3~6カ月、電話はダイヤル直通が可能。なお、手紙については配達制度がなく、郵便物の盗難も多いそうなので、事故防止上からも書留で出した方がよいようです。

以上ガボンについてざっと説明致しました。(参考にしている資料が古いことをお詫び致します。) ガボン大使館は東京・広尾にあり、前もってappointment をとれば、参事官が会っていろいろ細かく教えて下さるそうです。条件は、参事官は英語とフランス語しか話せないので、通訳が必要な場合には、自分で連れて来て下さい、とのことでした。私も行ってみようと思っていますので、日食に関係あることで、よい情報が入手できましたら、またお知らせします。

なおこの記事を書くにあたり、「海外生活の手引・アフリカ篇」、「アフリカを歩く」、「朝日旅の百科・アフリカⅣ」を大いに参考にさせていただきました。